

榎ノ木山遭難(2010年9月)

2人パーティーが山の中で仲たがひ。一人は下山し、もう一人は帰ってこない。捜索の結果、大滝の上で発見され無事保護された。



解説

40歳代の男性2人が、下山途中で感情のもつれから1人が先行し、駐車場で待っていたが、相棒が暗くなっても下山しないと警察に届け出。2日後、夕方大滝の上で遭難者を発見。夜間の救助は危険が伴うため現場でビバークを決めた。たき火で体を温め一夜を過ごす。翌日ヘリコプターでピックアップして救助を成功させた。遭難から4日間に渡った。パーティーの分裂が思わぬ事故につながる、という例を地でいった遭難であった。はぐれてしまってから慌てても遅いのだ。遭難者は足首の骨折などが見付き、それから1か月以上も入院する羽目になった。

迷ったルートについては、推測である。詳細は分からない。しかしながら、榎ノ木尾根を下らなければならないのに、沢に下ってしまった結果から、冷静な判断力はなかったと思われる。急な斜面を下ったときに足首の骨折をしてしまった。発見場所の下には、大滝(落差20m)があり下れない。上にも負傷をしていて急斜面は登り返すことができない。万事休すである。

こうなる前に、「あれっ！おかしい」と思ったときに引き返す鉄則を忘れてはならない。